

市町村未来づくり交付金自己評価調書

1 事業群評価調書

団体名： 城陽市

重点目標	緑と太陽、やすらぎのまち・城陽 ・安心・安全のまちづくり ・心がふれあうまちづくり ・生き生きと活力に満ちたまちづくり ・市民と進めるまちづくり ・地方分権を進めるまちづくり		
	事業群	構成事業名	
安心・安全のまちづくり		地下水保全対策事業	
		道路・河川等排水設備整備事業	
		総合運動公園下水道接続事業	
事業群全体による 成果の概要	豊富で良質、安心・安全な地下水を保全するために、関西大学との官学協同により実施した「城陽市における地盤及び地下水環境保全に関する調査研究委託事業」については、地層特性の把握、地盤モデルの作成、地下水流動解析を行い、汚染源の広がりについてシミュレーションができるようになり、今後の地下水保全対策に活用できるようになった。 道路・河川等排水設備整備事業については、河道改修や排水路の整備により、交通の円滑化及び、治水対策を進め、市民生活の安全を確保することができた。 総合運動公園については、施設設備の改善により快適で清潔な環境を確保することができた。		
	本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。		
	成果指標		実績値
指標式等			

(記載要領)

- 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

2 個別事業評価調書

団体名： 城陽市

事業名		地下水保全対策事業			
事業の概要		<p>環境への意識の向上に伴い、市民の地下水への関心が高まっており、また地下水保全対策委員会においても総合的な地下水調査の必要性が指摘されてきた。</p> <p>その対策として官学協同により、GIS(地理情報システム)3D(3次元)を用いた学術調査による取組みとして行うもので地盤及び地下水の総合的な現状把握(帯水層を形成する地盤、地下水の流れ、地下水の水質)と将来の予測を明らかにし、市全域の地下水の流れを把握するもの。</p> <p>以下のとおり、平成18年度より3箇年で取り組んできた。</p> <p>初年度(平成18年度):文献調査、地下水位等の観測、観測データのGIS入力(中間まとめ)</p> <p>第2年度(平成19年度):文献調査、地下水位等の観測、GIS2(2次元)による分析(中間まとめ)</p> <p>第3年度(平成20年度):GIS3Dによる分析(最終まとめ)、調査報告書</p>			
		事業期間	平成18年5月～平成21年3月		
		総事業費	9,975千円	本年度事業費	5,376千円
事業評価	事業の必要性	<p>環境に対する意識向上に伴い、市民の水道水源・地下水への関心は高まっている。また地下水保全対策委員会においても総合的な地下水調査の必要性が指摘されてきた。</p> <p>『第3次城陽市総合計画』において、市全域の地下水水脈や水量などの現状を把握するため、総合的な調査を実施するとしている。</p>			
	事業の有効性	<p>地下水保全のための観測体制の基礎構築</p> <p>地下水保全に関して、対外的に学術的根拠に基づく説明ができる</p> <p>水道水源、産業用、家庭用等の地下水利用について、現在及び将来について需給の安定性を確認できる</p> <p>地下水汚染に対する危機管理として、汚染の拡がりや濃度、汚染期間などが予測できる</p>			
	事業の効率性	<p>学術的な調査とするために、30年以上にわたって城陽市の地下水について調査研究している関西大学に委託した。</p>			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		<p>3 リーディング・モデル成果</p> <p>官学協同により取組んだ学術調査により、城陽市における地盤構造や地下水の流動特性が、詳細なレベルで明らかになった。このような調査研究は、過去においてこの地域で実施されたことはないものである。</p>			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
		<p>6 その他の成果</p> <p>ボーリングデータなどから地層特性の把握、整理を行い、地盤モデルを作成できた。</p> <p>地下水位のコンター図(等値線図)を作成することで、城陽市の地下水の流れ方向や流速を概ね把握できた。</p> <p>地盤モデルから地下水流動解析を行った。その結果、調査範囲における地下水の流れ方向や流速が詳細に解析できるようになった。</p> <p>上記の解析を基に、VOC(揮発性有機化合物)や重金属の汚染を想定し、汚染源の広がりについてシミュレーションできるようになった。</p>			

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名： 城陽市

事業名		道路・河川等排水設備整備事業			
事業の概要		市内道路の整備を行うことにより、生活環境の改善、安全性の向上を図り、また、市内の河川改修及び排水路の整備を行うことにより雨水を排除、治水対策を実施し、市民生活の安全、生活環境の改善を図る。			
		事業期間	平成20年度		
		総事業費	42,315千円	本年度事業費	42,315千円
事業評価	事業の必要性	道路については、遅れている道路網の整備、特に生活道路の改良を行い、生活基盤の整備と交通の円滑化及び安全を確保する必要がある。また河川等については、都市化の進展により、流域における保水・浸透機能が低下し、降雨の流出率が増加したことでピーク流量が増大し既存水路の流下能力不足による浸水被害が増大しており、河道改修や排水路の整備により治水対策を進める必要がある。			
	事業の有効性	生活道路の環境が改善され、生活基盤の整備と交通の円滑化及び安全が確保された。また河川、排水路は富野地区の浸水対策、雨水排除を実施するうえで重要な事業であり、市民生活の安全確保、環境改善に有効である。			
	事業の効率性				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果					
5 行財政改革に資する成果					
		6 その他の成果 道路舗装改良面積 1,240㎡ 河川は総合排水計画に基づく改修事業であり、整備率の向上が図られている。 清水川改修延長L=680m 整備済延長L=265m 整備率39% 荒見田排水路整備延長L=160m 整備済延長L=160m 整備率100%			

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

2 個別事業評価調書

団体名： 城陽市

事業名		総合運動公園下水道接続工事					
事業の概要		公共下水道本管供用開始に伴い、下水道法第10条及び城陽市公共下水道条例第4条に基づき、総合運動公園内の4箇所の浄化槽の撤去及び、公共下水道幹線への接続工事を実施したもの。					
		事業期間	平成20年度				
		総事業費	13,538千円	本年度事業費	13,538千円	交付金交付額	6,541千円
事業評価	事業の必要性	下水道法第10条及び城陽市公共下水道条例第4条は、供用開始後の早急な公共下水道への接続を義務付けていることから、遅滞なく実施する必要がある。					
	事業の有効性	下水道への接続により、総合運動公園・宿泊施設利用者の良好な衛生環境を形成することができる。					
	事業の効率性						
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果					
		2 住民の自治意識を高める成果					
		3 リーディング・モデル成果					
4 広域的波及成果							
5 行財政改革に資する成果							
		6 その他の成果 総合運動公園・宿泊施設利用者をはじめとした市民へのPRとなり、公共下水道への接続が促進されることが期待できる。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。